

あなたの街から 建設業の灯が 消えていく

人々が生活するために必要なものや、より便利な暮らしができるようにするものをつくるのが建設業の仕事です。

想像してみてください

もし、インフラ(公共施設、ガス・水道、道路・線路、電話・電気など)が整備されなかったら…

もし、豪雪地域で道路の除雪ができなかったら…

もし、震災が起きて、緊急車両等の入れる道が確保できなかったら…倒壊家屋の中に人が閉じ込められていたら…

もし、毎日を過ごす住宅・会社などの建物の不具合があったら…

建設業は安心・安全な暮らしを支えるなくてはならない基幹産業であり、そこに従事している人はエッセンシャルワーカーです。

しかし、建設現場では従事者の処遇改善の立ち遅れにより、建設工事従事者は減少・高齢化に歯止めがかかっていません。

地域を守るため、建設工事従事者の処遇改善、担い手確保・育成は国民的課題です。

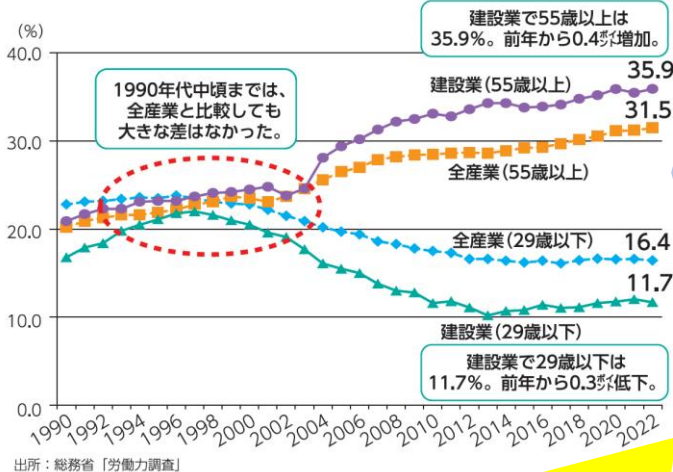
私たちの要望にご理解いただくとともに持続可能な建設業の実現に向けた国会請願署名への協力をお願いします

建東京土建

建設業の現状

建設工事従事者の減少・高齢化が深刻

高齢化が顕著な建設業



55歳以上が36%、29歳以下が約12%と高齢化が進行し、次世代への技術継承が課題。実数ベースでは2022年平均の建設業就業者数のうち、55歳以上が172万人で前年比1万人増、29歳以下が56万人で前年比1万人減。

予も手処
無は確遇
しはや保改
一・育善、
刻の成担
の猶はい

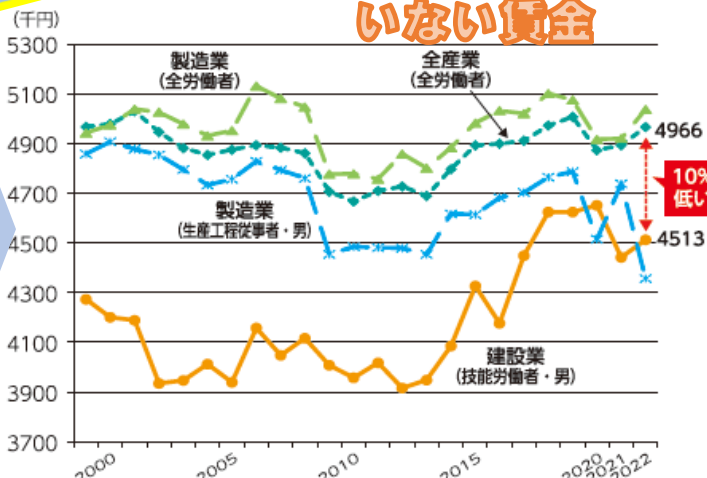
低賃金、長時間労働、

休日の少なさが入職を阻む

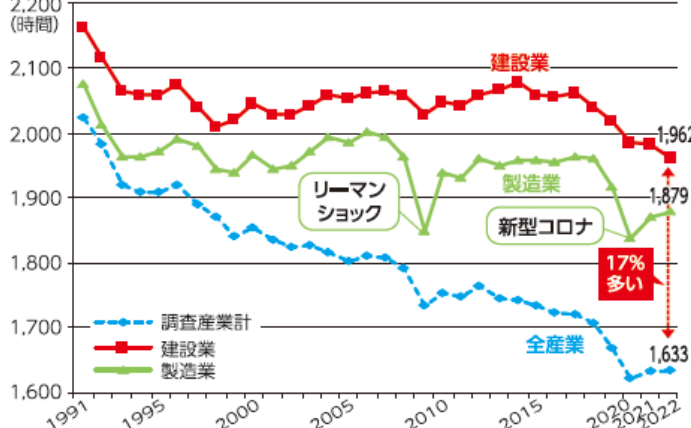
全産業ともこの10年間減少傾向にある。建設業においても減少傾向にあるが、他産業と比較すると依然として労働時間が長く、2022年は調査産業計に比べて329時間（17%）多い。

建設業技能労働者・男性の賃金（年収）は、2000年代と比較して上昇、当時より全産業平均との差は縮小しているものの、現状は全産業平均より10%低い状況にある。

全産業平均に達していない賃金



建設業の長時間労働の実態



私たちの要望事項

- ① 建設労働者の雇用改善、能力開発の推進及び向上を図るとともに、高い水準の賃上げに向けた環境整備に努めること
- ② 建築大工をはじめとした若年者等の入職・定着を促進し、建設業の担い手確保・育成を推進すること
- ③ 建設キャリアアップシステム(CCUS)の普及促進を図ること

**東京土建
一般労働組合**

〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-8-16
TEL03-5332-3971
<http://www.Tokyo-doken.or.jp/>

住まいの悩みは何でも東京土建へご相談ください